



令和3年9月29日

No.75号

山形市立第四小学校
校長 日高 伸 哉

<児童数 196名>

TEL 623-6019

～ おめでとう 110 歳 校歌朗読プロジェクト③～

“きよいこころの花束”をもとめて

2 番の歌詞に想う・・・校歌の願い、希望と期待

～青山友紀アナウンサー プロの指導に感謝～



「きよいこころの花束」とは・・・。
山形放送の青山友紀アナウンサーを講師にお迎えしての2回目。

山形放送の取材（報道部大矢記者さん）も同時並行です。「2 番の歌詞はとてもむずかしいよね・・・。」青山アナウンサーの投げかけに、7名は大きくうなずきます。2 番の歌詞は、いったい、わたしたちにどんなことを伝えようとして

いるのでしょうか。難しい課題です。「一人ひとりの考えを聞きたいな。」・・・青山アナウンサーの問いかけに、7名が真剣に、そして、心から応えます。

2 番の歌詞には「大切にしたいこと」や「大切に思っていること」がぎっしり詰まっていると思う。「きよいこころ」とは「美しい心」・・・「きれいな心」・・・「よごれない心」・・・「にごりのない心」・・・「純粋な心」・・・

いやなことがなく、四小全員の心がきれいになるといい。「美しい心」は四小のみんなが求めてゆくものだと思う・・・。一日一日を大切にきて6年間かけて「きよい心」を求めてゆこうと投げかけていると思う。・・・会議室に、さわやかで澄み切った空気が流れました。



その後、青山アナウンサーは、

「花束」をキーワードに、『今皆さんがこの場で、「きよいこころ」と言う言葉を紡

ぎ合った、学び合ったこと「そのこと」が、きよいこころの花束をもとめて学んだことだと思ふよ』『一人ひとりのよさが一輪の花束で、毎日毎日その花束を贈り合っている。そういう学校でのくらしが尊く、「きよいこころの花束をもとめて学ぶ姿」だと感じているよ』ということをお話されました。

いちようの子どもたちは、たくさんのことをもとめて、毎日学校に来ます。その一つ一つに、お互いが誠実に応えていくこと。そういう営みの積み重ねが、めざす徳体知の調和のとれた「いちようの子（心の豊かな子ども・健康でたくましい子ども・意欲的に考える子ども）」につながってゆく。「おめでとう110歳 校歌朗読プロジェクト」を通して、「お互いを尊重し、よさの花束を贈り合いたい、受け取り合いたい」、あらためてそう強く思います。

プロジェクトメンバーの7名は、9月15日には、“いちようの木の下”で、諸々に“想い”を馳せ、27日には、“きよいこころの花束”を深く考えました。青山友紀アナウンサーには、2回にわたり、姿勢や表情、発音・発声、抑揚についてのご指導に加え、いちようの子どもたちと一緒に歌詞への本質に迫る貴重なお時間を創っていただきました。また、メンバー一人ひとりへの優しいまなざし、温かな語り、魅了してやまないプロの気品、そしてお忙しい中、本校のためにお時間を割いていただきましたことに、心から御礼申し上げます。

校歌

詩 真壁 仁
曲 福井 文彦

一 あせぬ緑にかがやいて

いちようの若葉 かぜにそよぐ
梢にみまざる あかるい力

仰げば胸の 血潮 ながる

あめのびよのびより 強く強く
いちよう いちよう いちよう
希望のしるし いちよう

二 きよいこころの花束を

もとめてここにまようも学ぶ

知識のいずみの あふれる行く手

思えば若い 血潮 もえたつ

あかたれかたれ 楽しいおもい
いちよう いちよう いちよう

母校のまもり いちよう

10月1日（金）の創立110周年記念式（校内TV放送）において、7名のプロジェクトメンバーが、磨き上げてきた「校歌朗読」を発表します。1～6学年のそれぞれの教室においての「生」朗読です。届け！第四小への思いや願い。そして、わたしたちの「第四小」を見つめ、111歳に向かってスタートしましょう。